

■ CONTENTS ■

【特集】卒業生保護者からのメッセージ 「後輩保護者へ伝えておきたいこと」

特別支援学校は、小学生（幼稚部がある学校もあります）から高校生までが同じ敷地の中で学びます。そこでは、学習・生活・行事等、さまざまな場面で関わり合うことで、年長者としての意識形成、先輩や上学年・学部へのあこがれを生み出し、子どものキャリア発達に大きな影響を与えるよい環境になっています。

これは保護者の皆様にとっても同じことが言えます。身近な場所に、我が子の数年あるいは10年あまり先を歩む上級生と先輩保護者たちを見ることで、「将来必要なこと」に気づき、「将来必要なこと」は「今から取り組んでおく必要があること」だと教えてくれるはずです。



卒業生保護者の「感慨」に思いを致して。

卒業という節目に当たり、進路便り「わーく&らいふ」では、毎年恒例の特集をお届けします。

この特集は、卒業生保護者の皆様から、後輩の皆さんに向け、進路選択に向けたポイントをはじめ、これまで効果的だった取組や足りなかった取組などをお伝えし、後輩保護者の皆さんにとって「今から必要なこと」や「もっておくべき視点」を示唆頂ける内容が盛りだくさんです。先輩保護者の今の複雑な「感慨」に思いを馳せながらどうぞお読みください。



進路を決めるに当たってのポイントとなったのは？

第1位 本人に合っているか。

- 本人が通えるかどうか。作業内容が本人に合っているかどうか。
- 本人が毎日楽しく過ごせる場所をさがす。
- 本人が楽しく過ごすことが出来るかどうか。
- 本人が無理をしない範囲でできることや、頑張れる環境や生活を整えること。
- 本人との相性（活動内容、環境、職員さん）を優先させる。
- 家庭都合ではなくて、本人都合（好き、楽しみ、楽しい）で継続できるかを見極め。
- 進路先の先生（支援員）との関係がよいか。

- 子どもの力に合った進路を見極める。
- 本人の気持ちが落ち着くところ。
- 自分の良いところを活かしていけるところ。
- 本人が無理なく過ごせること。
- 大事にしたのは「本人が楽しく通える」とことと「お風呂の利用可能などところ」です。しかし、重複学級のこどもが利用できる施設も満員状態のところが多く、進路を決めるまでに時間がかかりました。
- 学校の雰囲気似た環境であること。

第2位 親の安心感

- その事業所に対して保護者が信頼できること。
- 家族の状況にあっていること。（家族の仕事と両立できること）
- 一方が利用できないときの施設の併用。
- ショートステイが利用できるかどうか。
- 実習中の見学（午前、午後それぞれの過ごし方と、職員さん、他の利用者との関わりや様子）
- 先輩保護者さんからの情報
- 進路指導の先生からの情報です。

第3位 本人の希望

- 本人が希望するところに決めました。
- 進路は親の希望を押しつけず本人の意思を尊重しました。

第4位 急激な変化を避ける

- 環境の変化は苦手なので、あまり大きな変化を与えずできるように思いすすめました。
- 急激な環境変化がないように。

【まとめ】進路選択のポイント

本校の卒業生の8割程度が毎年、卒業後「福祉施設」を利用しています。お子様に合う施設を探すには、まず親が施設のことを知った上で、お子様の「興味」「特性」「実力」と合うかどうか考える必要があります。選択肢を絞り込めたら、「見学」「体験」「実習」を実際にやってみることにしますが、その際、体験や実習の様子を家族の目で見て確認することがポイントです。通所可能な福祉施設の数に限られていますから、お子様に合う施設の情報を集め、見学を繰り返しておくのも親の準備として重要になります。本校で実施している「ARA・SHI福祉就労セミナー」などの場を積極的にご活用ください。

家庭で「やって良かった。」と思う取組は？

■ 家庭生活の充実

①よい生活習慣づくり

○食後の後片付けの習慣や脱いだ服、靴下は洗濯かごへ！！の習慣。はじめはすごく面倒くさがり投げ捨てたりとありました。でも6年間声かけ続けこの頃やっとスムーズに「食器は流し台へ」「洗濯物は洗濯かごへ」ができるようになりました。

○帰宅後リュックはここにおいて、荷物を出して、、、を繰り返し本人に見せながら毎日続けていたら本人も同じようにするようになりました。

○食後のおぼんの片付けを継続していたらできるようになったので良かったです。



②約束・目標作り・ほめる。

○約束事や目標を決める。決めたら守る。頑張ったらしっかりほめる。これにつきます。

○ほめること。待つこと。



③愛情と時間をかける。

○愛情と時間をたくさんかけること。

○健康第一で笑って過ごすことを大切にしてきました。

④学校の出来事を聞く・知る

○学校での出来事を毎日こちらから聞いていましたが、後からは自分から話してくれるようになりました。

⑤お手伝い・家事の習慣

○1年生の頃から無理なくできるお手伝いは毎日続けてます。親が疲れて帰るときもあるので助かります。

○料理と一緒に作ること。

○家事に参加するよう親子で一緒に取り組むこと。



■家庭外でのよい体験

①バス通学

○通学でバスを利用するようになりました。(以前は)一人では絶対に乗れなかったのが、友だちと行き来して乗れるようになりました。そのちょっとしたことは当たり前のことなのですが、子どもと私にとってはすごいことのように思えます。またひとつ成長したなと感じます。

②ショートステイ

○高校(高等部)に入ってショートステイを始めました。お友達がたくさんできて一人でお泊まりすることができるようになったのは良かったです。



③母子療育・親の学び

○幼少期からのリハビリ、母子療育、児童デイの継続

○親も積極的に学ぶ、関わる(研修会、交流会(親子で参加し情報交換、)親の会)

○本人が学んできたことを家庭でも取り入れる。(例:ルーテル幼稚園での立ち止まっ
てする挨拶やていねいな言葉かけ、すまいるきっずでの母子療育での接し方、言葉

かけで効果あることを繰り返す)

④児童施設(陽光学園)への入所

○家庭の事情で早めに施設に入ることができて良かった。自立の第一歩でした。

⑤たくさんの人たちとの出会い

○就学前からたまきな荘を利用し、それから歩かない子は預かったことがないと言われた保育園にも快く受け入れてもらい、幼少の頃からたくさんの経験ができました。周りの人からたくさん声をかけてもらえ刺激を吸収することができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

○私一人の力ではどうにもならない場面が多々ありました。学校の先生方、陽光学園の方と試行錯誤しながらここまでこれたんだとの想いしかありません。たくさんの方が、わが子に向き合い、支援していただいたこと、今卒業を目前により深く感謝しています。

【まとめ】家庭での取組 ポイントは「長い目」と「習慣化」

家庭生活の良さは、毎日繰り返し同じ事を同じ順序で取り組めることです。つまり、ルーチンとして教えやすく、繰り返すため身につけやすい場所が家庭です。しかし、なかなか短期では成果が出ずに焦ったり諦めたりすることもあるかも知れません。ポイントは「時間を味方につける」という考え方です。成果を急がず「1年後」「6年後」「12年後」と長いスパンで考えてみましょう。そうして、お子さんのよい「習慣」をたくさんつくってあげましょう。

学校の学習・生活を通して身につけたことは？

①身の回りのことの自立

○準備というか、行くから「これを着て」や「トイレに行く」など何かする前にすることがわかるようになりました。

○身辺自立

○服の着脱や、指先の動き等も本人なりに向上したと思う。

○早寝早起き朝ごはんの習慣で、体調を崩すことが少なく、元気に過ごせました。



②集団生活への適応

○集団生活の中で協力する楽しむことをとても喜び、毎日登校できていました。

○話をしっかり聞く習慣。

○家庭では自由自在でルールある生活が困難でしたが、学校(集団生活)で学ぶ事や、体験を通し多くのことを身につけました。(掃除モップかけ、はさみを上手に使える、ぞうきんを手縫い出来るなど)手先が器用になりました。

○集団でのルール。

○他者の頑張りをみることで、我慢することを身につける。自分自身もできた喜びを

味う。

- 明るさ。「イイネ！」などお互いに共通のサインメッセージを送り合うことで笑顔になれることを知る。
- 場面の切り替え（式典、行事等、静と動の区別）
- 友人や先生と関わり合いながら協力して何かを達成すること。
- 人との協力。
- 集団生活を学ぶことができた。
- 社会性（周りの状況に合わせる）が本人なりに向上したと思う。
- コミュニケーション能力、基礎基本的な学習が身につきました。

③人との関係

- あいさつをする。
- 友だちとの関わり。
- 優しい言葉かけや思いやる心。



④集中する力・つづける力

- 最後まで一人でやりぬくことはだいができるようになりました。言葉遣いも良くなりました。
- 家でも集中して過ごす時間が増えたこと。

⑤ポジティブな気持ち

- 学校の生活で私が本当に変わったなと思ったのは、自分から何でも進んでやりたがる気持ちです。以前はなにもしないのが当たり前だと思っていました。また、コミュニケーションをとることも苦手でしたがそれも少しずつ克服してきているようで嬉しいことだと思います。
- 卒業し社会人に向けた自立心（まだまだですが、少しだけ）

【まとめ】学校の取組の意義 社会へ出るための準備

家以外の場所で、いろいろな人と「過ごす」「活動する」「はたらく」ことを練習するための大切な場所が学校です。これは将来の社会生活への準備期間と考えられます。学校という集団生活には、ルールや制約もたくさんあり、子どもにとって心地よいことばかりではありませんが、集団生活を通して、将来社会を生きていく上で必要な「当たり前の行動（あいさつ、ありがとうやごめんなさいの謝意、規則正しい生活習慣など）を学ぶ」場として重要です。

もっと力を入れておけば良かったと思うことは？

①身辺自立

- 翌日の荷物準備を一緒にしたり声かけをしたりすること。「学校に行く」と張り切ってはいても翌日の準備に全く関心がなく、小中高と12年もあったのにと考えます。
- 身辺自立。できないと思って親が手をかしていたのをもう少し本人にさせていたら

もう少しできるようになっていたかも、と思います。

②家事・手伝い

- 家の手伝いで、本人に興味のないことでもきちんと教えたら自信につながったのかなと思いました。

③親の関わり方教え方

- 一つ一つのことを最初に丁寧に教えること。
- いろいろな経験をさせること。

④施設の情報収集

- コロナの影響で活動自粛もありましたが、いくつかの施設見学や他の保護者との情報交換をする機会がほぼなかったのでこの部分をもっとやりたかったと思いました。

⑤余暇の活動作り

- 本人の得意なことや好きなことを余暇につなげられなかったこと。

⑥親元離れた体験（ショートステイ）

- ショートステイを幼い時期から取り入れること。（それにむけた）心身の自立。一人で自室で寝ること（いまだにできません^^ゞ）いざというときに預けられない。

⑦我慢強さ

- 我慢すること。結局我が通らず怒って緊張が強くなり親が根負けすることになっていきます。

⑧その他の言葉

- 今、本人ができることをしっかりサポートしてきたつもりなので、もっと力を入れておけば良かったと思うことは何もありません。出来ることがどんどん増えてるので十分満足です。
- 生後6ヶ月の発症当時の状況から考えるとよくここまで成長できたと思います。できることをさらに増やし、今後も一生成長できると信じて、もっと力を入れて関わっていきたいと思います。
- 子どもの現状に満足ということではないですが、成長の過程でどこにどんな道があったのか思い浮かびません。今まで関わって頂いた方たちに感謝の思いでいます。
- 先生方のおかげで成長することができました。ありがとうございました。

【まとめ】 もっと力を入れておけば良かったこと

学校卒業の節目には「家族の変化」や「親の介護」など様々な問題で同時に悩まれる保護者の皆さんもたくさん目にしました。「親元から離れる」という想定も、親が若い頃にはない視点ですが、近い将来どの家族にも必要になることなのです。

その他後輩に伝えたいことは？

■「あきらめないこと。」（一般学級保護者）

2年の実習では「車から降りない」「施設へ入らない」と拒否がありましたが、3年

の実習で同じ施設に再チャレンジ！！なんとスムーズに楽しく通い、あいさつもすっかりできました。一度ダメでも再チャレンジしてみても良かったと思いました。1年間の成長を感じました。

■「たくさんの人たちとの出会いを大切に～一人じゃない～」(一般学級保護者)

荒尾支援学校で子どもを通したくさんのお友達やお母様方と出会えたこと。一緒に悩み泣いたこともありましたが、それ以上に多くの喜びや頑張ったことに共感し、支え合った事は私や子どもにとって宝物です。これからも一人じゃない！！皆さんそれぞれ一生懸命頑張ってます。その想いを胸に春から社会人一年生スタートします。出会いを大切にし多くの方と関わり多くのことを学んでください。

■「未来への備え～変化する事への準備～」(一般学級保護者)

本人を囲む家庭環境(親の介護等)はいつ変わるかわかりません。本人も家族も慌てず対応できるよう日々の生活を安定させておいてください。

■「学校生活は大切な時間。子どもを応援しましょう」(一般学級保護者)

いろいろと不安だと思います。でも3年間ここで学んだ日々は成長する上での大切な時間だと思います。応援する言葉をたくさん考え勇気につながるように支えていきましょう。

■「子どもに関わる人たちとよく話し合しましょう」(一般学級保護者)

幼いと思っていても日々忙しく子育てに追われている間にあっという間に卒業を迎えます。学校の先生方をはじめ、日頃から子どもさんの支援者としてよく話し合いアドバイスをもらおうと心強いと思います。

■「今からでも早すぎることはない！」(重複障がい学級保護者)

今までの先輩方の経験から早めに動く必要性はわかっていました。しかし、コロナの関係から施設見学ができず、施設の決定が遅くなりました。来年度もコロナの影響から進路活動が困難かと思いますが早めの活動をおすすめします。

編集後記

本年度保護者の皆様に「進路・福祉に関するニーズ調査」を実施し結果を本校ホームページへ掲載しています。ご覧いただけておりますでしょうか。

調査結果を見ますと、保護者の皆様がわが子の進路を考えるに当たって必要と感じておられる情報のひとつに「(先輩が)進路を決めた理由」がありました。

今回の特集はまさにこのニーズに応えるものです。また、この特集を組むに当たって実施したアンケートでは、有り難いことに、ほぼすべての保護者の皆様から回答がありました。このことから、この種の情報が重要と感じておられること、後輩保護者へと経験とバトンをつなごうとされている様子が見えがえします。どうぞじっくりとお読みくださいますようお願い致します(高等部一般 谷口)

オンライン勉強会のご案内

1月28日付「わーく&らいふ第56号」で紹介しました「親心セミナー 専門用語を使わない障がいのある子の『親なき後』のお金の話」が、期間限定でアーカイブ(見逃し配信)されています。詳しくは以下をご覧ください。必要な情報を得てください。

(↓以下、事務局からのメールを引用)

1都3県の自粛期間が延長の方向となり、もう少し我慢の時期が続きそうですね。そこで、緊急事態宣言『延長』特別企画として、『北養かしの木おやじクラブ主催・親心後見 web セミナー』アーカイブ(見逃し)配信を再開させていただくことになりました！ぜひぜひ、必要としているお友達やお知り合いのみなさまにもお伝えいただけたら嬉しいです。

【アーカイブ(見逃し)配信】<https://youtu.be/RKyYf0-6iMk>

親心セミナー

専門用語を使わない

参加費無料

障がいのある子の

「親なき後」の
お金の話

Youtube
配信



しゃない こうしろう

講師 鹿内 幸四郎

日本相談援助センター本部 事務理事

様々な人と関わるのみならず、福祉社会の専門家として、セミナー活動は全国に3万人を超えており、「専門用語を使わない」セミナーと方向性には違いますが、ダウン症のひとり親2世の経験であり、自ら経験した「親心後見」の日本初の書籍である。

配信日時 2021年2月22日 月 10:00 ~ 3月8日 日 10:00

配信方法 Youtube限定配信

こんな方におすすめ 15歳~19歳の障がいのあるお子さまをお持ちの保護者

お申込み 右記QRコードよりお申込み下さい



30年後、私たちが死んだら
“うちの子”どうなる？

起こりうる困難を先読みしてつくった「親心後見」のしくみと、

将来にわたって妻と子が **安心して暮らせるお金ののこし方**

北養かしの木おやじクラブ 主催